



designed by Yui Takeuchi.

出発点の「宗教とコミュニティ」から「寺カルチャー」までの道のりは、八人九脚で平均台を渡るような、いつバランスを崩すかひやひやつつ、最後はなんとか雪崩れ込んだような。どんどん動きの良くなっていくプロ学生さんたちを頼もしく眺めつつ、最後に疲れ果てた自分がいました。

(澤田)

仕事柄、自分の立ち位置と対象の関係を物理的な空間のなかで考えているため、場所から離れて文化と社会の関係を考えることにはとても戸惑いました。冬学期は仕事環境も変わって混乱状態に陥りましたが、考えるところの多い企画でいい経験をさせていただきました。

(三谷)

自分が発表をと思わなかったし、ポスターデザインをすとも、150人のお客様が来てくださるとも、そもそもテーマが「寺」になると思っ  
ていませんでした。企画というのは最後まで「!」「?!」が絶えないもの  
ですね。そういう意味で成功も失敗も満載でしたが、楽しい勉強の機会を  
いただきました。

(竹内)

フォーラムの企画・運営は想像していたよりも大変でした。寺カルチャー  
というテーマもちょっと難しいかなとも思っていました。全員の頑張り  
と先生方のご指導で、何とかまとめられたのは素晴らしいです。個人  
的な事情で後半ほとんど参加できず、忸怩たるものがありますが、ほぼ満  
席の来場者が熱心に発表を聴いている様子は感動的でした。

(森田)

かれこれ10年以上お寺巡りを趣味としてきた私としては、寺カルチャー  
というテーマに“縁”を感じずにはられません。個人的な反省点  
はここに書ききれないほどありますが、近年の仏教ブームをとらえ直す機  
会を創出できたことをうれしく思っています。

(土本)

仏教学ではなく文化資源学の観点から「寺カルチャー」を検討する。無謀  
にも見える挑戦でした。しかし多くの方々に支えられ、なんとか形になり  
ました。講師やゲストの方々、指導いただいた先生方、来場者や申込み戴  
いたの方々、皆様に感謝申し上げます。

(柳澤)

ほとんど条件に縛りのない中からテーマを選んでいたら、いつの間にか  
テーマを「作って」いたというのが文化資源らしいと思いました。また、  
経験豊富な社会人の方と作業をさせて頂いたのは、色々な意味で非常に勉  
強になりました。

(廣瀬)

学部とは違う大学院の特性のため、同期生同士あまり集まることはない  
と思ったが、フォーラムの準備のため1年間定期的に鼻をつき合わせなが  
らみんな親しくなったのと、仏教というテーマを通じて日本社会の色々な  
面々が勉強になったのが嬉しい。

麦のタバコ煙もういいのに MTG もうないですね!

(盧)

第11回文化資源学フォーラム「#寺カルチャー～仏教趣味のいまを視る」

主催：東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究室

「#寺カルチャー」実行委員会（澤田るい 竹内唯 土本一貴 廣瀬鮎美 三谷八寿子 森田康夫 柳澤健太郎 盧ユニア）

後援：文化資源学会

協力：遠藤卓也（「誰そ彼」制作・編集部） 野渡幸生（歩プロセス） 安田信治（ウェブサイト制作） 横田信應（玉蔵院）